

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計動向 関連 (北海道)	良くなる	観光名所（従業員）	・北海道新幹線が開業したことから、今後、しばらくは開業効果が続く。 ・観光の最盛期を迎えるため、輸送量が増大することになる。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）		
	やや良くなる	商店街（代表者）	・しばらくは北海道新幹線の効果により、観光客、ビジネス客などの活発な動きが見込まれる。一方、地元客の動きは平常化することになる。 ・地元住民による消費が比較的活発な時期になることに加えて、規模の大きな大会などが予定されていることで、来街者の増加が見込め、交通、宿泊、土産物などの売上アップが期待できる。また、中心市街地においてインバウンド事業に取り組むホテルが開業したことから、外国人観光客の来訪も徐々に増加するとみられ、今後の景気は上向くことになる。	
		商店街（代表者）	・季節的な事情により、今後についてはやや良くなる。ただ、好調であった前年並みの増加がみられるかまではわからない。	
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・北海道は季節的に今が一番悪い時期であるが、これから春を迎えるため、今後についてはやや良くなる。さらに、北海道新幹線の開業がムードを明るくすることも期待できる。ただ、人手不足に伴う人件費の増加が零細企業としては懸念材料である。	
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・ゴールデンウィークを契機に観光客で活気付くことになる。それに伴い事業者の収入も増えてくることで、お金が飲食店にも流れてきて、当店の売上にも貢献してくれることを期待している。	
		百貨店（販売促進担当）	・来客数の回復傾向がみられ、そのことが買上客数の増加にもつながっており、今後の客単価上昇の後押しとなることを期待している。	
		スーパー（店長）	・少しずつではあるが、景気は良くなっている。3月の春闘もベースアップの企業が多くみられたことで、その影響が少しずつ表れてくる。ただ、節約志向と高品質志向といった消費の二極化はどんどん進むとみられる。	
		スーパー（役員）	・北海道新幹線の開業により、ゴールデンウィークに向けて、観光客を中心に人の動きが活発になることが期待できる。	
		スナック（経営者）	・春らしい陽気になってくることで、人出が増えてくることになる。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・近隣アジアからの外国人観光客の需要に加えて、各種学会やプロ野球交流戦の地元開催などにより、宿泊予約が好調に推移している。	
		旅行代理店（従業員）	・今年のゴールデンウィークは最大10日間の連続休暇となることから、観光客の入込の増加が期待できる。当地においては5～6月にかけて芝桜やチューリップなどの季節の花を巡る旅が人気となっていることから、特に期待できる。	
		タクシー運転手	・これからゴールデンウィークがあるため、北海道新幹線開業の影響を考えると景気は良くなる。ただ、そのほかに景気に影響を与えるような要因は見当たらない。	
		美容室（経営者）	・関連商材の販売量が徐々に回復してきており、今後、全体の売上が増加するような雰囲気が出てきている。	
		美容室（経営者）	・春になると、人が外出する機会が増えてくるため、今後についてはやや良くなる。	
		住宅販売会社（役員）	・マイナス金利政策の影響で住宅ローン金利が低下していることで分譲マンションの需要が増してきている。これまで活発に動いていなかった客層も動き出してきている。	
		変わらない	商店街（代表者）	・地元専門店の廃業や百貨店の撤退などが相次いでおり、地元の商業環境の先行きに対する不安が消費に大きく影響することになる。
			商店街（代表者）	・客の気持ちの面では上向いてくるとみられるが、現状からは変わらないまま推移する。
			百貨店（担当者）	・北海道新幹線の開業効果に期待したものの、想定ほどの伸びがみられなかったことから、今後についても当初の想定を下方修正しなくてはならない恐れがある。
			百貨店（販売促進担当）	・北海道新幹線開業に対するメディアの盛り上がりや道南地方の盛り上がりと比べると、札幌などでの注目度が低く感じられることから、消費に対する影響度は低い。今後、急速に消費が上向きになるような要因も見当たらないため、しばらくはこのままの状況が続く。

スーパー（店長）	・4月からの値上げに関する報道がされていることで、買い控えが進み、価格の二極化が一層進むことになる。
スーパー（役員）	・人口減少の進むローカル地域では、商業施設が1か所オープンすると顧客の分散が始まり、1店舗当たりの来客数が減少することになるため、しばらくは来客数の減少傾向が続き、景気回復は遠のくことになる。また、価格競争による客の取り合いが起こることも懸念される。
コンビニ（エリア担当）	・北海道新幹線の開業、高速道路の延長などによる効果は生じるだろうが、当業界への影響は限定的とみられる。個人消費の回復は、公共工事の増加などにより根本的な所得の増加が進まない限り難しい。
コンビニ（エリア担当）	・来客数が相変わらず低迷しており、この先の来客数が増えるような要因がない。
衣料品専門店（経営者）	・ガソリンの価格が安定していることなどから、若年層は札幌などに日帰りで買物に行く傾向がみられるため、今後も変わらないまま推移する。また、地元では新たに大型店の閉鎖が決まるなど、厳しい経済環境にある。
衣料品専門店（店長）	・大きな効果をもたらすような明るいニュースもなく、厳しいニュースばかりが目につくため、今後も変わらない。
衣料品専門店（店員）	・ここ数か月、来客数に伸びがみられないため、今後も変わらないまま推移する。
家電量販店（店員）	・まだまだ客の購買意欲が感じられないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（経営者）	・自社の新車の受注は依然として前年実績を超えているが、新車市場全体が縮小傾向にあるため、今後の推移を注視している。
乗用車販売店（経営者）	・現在の状況を大きく変えるような要因が見当たらないため、現状維持の状況が続く。
乗用車販売店（従業員）	・変化するような兆しが見当たらないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・あまり明るい材料がないなかで、金利引下げの動きに拍車がかからないかが心配である。
自動車備品販売店（店長）	・新車の納車などが進んでいる一方で、車用品についてはタイヤやナビなどの高額商材の単価低下が目立っている。とりあえずあれば良いという流れが強くなっている。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・まずは健康に対する投資の意識を普及させることが重要であり、販売タイミングの難しさを感じている。今はまだ耐える時期かもしれない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格に大きな変動がみられないため、今後も変わらない。
高級レストラン（経営者）	・道東においては高速道路が少しずつ整備され、便利になってきているため、一部の地域や店舗では景気が上向きになるかもしれないが、地域全体の景気を上向かせるような要因までは見当たらない。一方、函館周辺では北海道新幹線の効果で観光客が多く訪れるとみられるため、相当の経済効果が生じることになる。
高級レストラン（スタッフ）	・相変わらず高級飲食店に好景気の風は吹いてこないが、周囲には少しずつ明るい兆しが出てきている。ただ、売上増加が見込めるようになったとしても、人手不足の影響が心配である。現状では少ない従業員で対応しているため、募集をしても人が集まらなければ、接客の質を変えざるを得ない。知り合いの店でも特に夜のパート・アルバイトの人手確保に苦心している。
高級レストラン（スタッフ）	・客の様子をみると、景気の先行きを見定めているようであるため、今後しばらくは変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	・旅行申込の内容、件数ともに、前年や前々年と大きな変化がないため、今後も変わらない。
旅行代理店（従業員）	・今後については、参議院選挙とリオデジャネイロオリンピックがあるため、旅行需要にとっては逆風である。選挙があると公務員などは多忙で旅行ができず、オリンピックがあると自宅で観戦する人が増えることになる。
旅行代理店（従業員）	・海外旅行は社会情勢に左右される面があるため、先行きが見通せない。
タクシー運転手	・好転するような材料が見当たらないため、今後も変わらない。
通信会社（社員）	・最低賃金が向上せず、景気を刺激するような施策もみられないため、今後も変わらずに悪いまま推移する。
通信会社（企画担当）	・客足が改善するようなトピックスがないため、今後も変わらない。

		観光名所（職員）	・円安に伴う外国人観光客増加の恩恵で、観光ホテルなどの一部の景気は上向いているとの話は聞くが、一過性の需要によるものであり、根本的な景気の底上げには至っていないため、今後も変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・来年に予定している消費税増税の凍結や株式市場の回復が図られない限り、現状のまま推移する。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・前年暮れから外国人観光客の動向が大きく変わってきており、購買単価の低下が顕著にみられるようになってきている。こうした傾向は今後も続き、前年比でマイナス20%程度の大幅な売上の減少が見込まれる。ただ、今までが良すぎただけであり、それが通常の状態に戻りつつあると思えば、依然として好調であると判断すべきなのかもしれない。
		百貨店（売場主任）	・3月の春物の動きの鈍さは天候の影響もあったかもしれないが、4月以降の回復が見込めない。当地ではマイナス金利の影響や北海道新幹線の開業効果もあまりみられず、先行きに対する不安も大きい。今後については集客対策が急務であり、ゴールデンウィークにかけてのイベントの仕掛けが重要になってくる。
		百貨店（売場主任）	・外国人観光客による売上が減少している一方で、地元客による売上は微増にとどまっているため、今後についてはやや悪くなる。
		百貨店（役員）	・客の大半を占める中流層以下の人々の状況がまるで好転してこないため、店内に活気がみられず、今後についてはやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・現状をみても景気が上向くような材料が見当たらないため、今後についてはやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・円高、株安、不安定な金融経済、地政学リスクの高まり、賃金の伸び悩みなど、消費マインドに対してマイナスの要因ばかりが目につくため、今後についてはやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこの主要銘柄が値上げになることから、客の来店頻度の低下が懸念される。買い合わせが多いアルコールの売上も減少すれば、来客数のボリュームゾーンである夜間の売上に影響することになる。
		コンビニ（店長）	・人手不足で閉店する店が増加していることから、今後の景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・駅前の百貨店の閉鎖など、先行きへの不安要因が多いため、今後についてはやや悪くなる。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・特筆できるような景気対策も見当たらないため、今後についてはやや悪くなる。
		タクシー運転手	・例年、4月になるとタクシーの利用が極端に少なくなるため、今年も例年どおり4月以降の売上が大きく落ち込むことになる。
		タクシー運転手	・2～3か月先の受注件数が前年より減っているなど、受注状況が悪い。問い合わせの件数も少なめである。ただ、外国人観光客の仮予約に関しては、半年後から1年後にかけてであるが少しずつみられるようになってきている。
		タクシー運転手	・5月は1年で最も売上の減る月でもあることから、今後については景気回復を期待できない。
		パチンコ店（役員）	・冬場の原油の値下がりには企業にとっては追い風となったが、ここに来て微増ではあるが原油が値上がりしそうな傾向があることから、中小企業にとって良い方向で影響するとは考えづらい。マイナス金利の影響も懸念される。
悪くなる		コンビニ（エリア担当）	・客の低価格指向が継続する。一部のたばこの値上もあり、4月以降は販売量が減少することになる。また、北洋さけます漁の代替えでさんま漁などに切り替わることが決まったが、そのことがどう影響してくるのかが不明確である。水産加工場の稼働も悪いままである。
		観光型ホテル（役員）	・円高に伴い外国人観光客が減少することが見込まれることに加えて、北海道新幹線の開業により道南地区に観光客が集中しており、道北や道東ではこの先の予約状況が思わしくない。
		タクシー運転手	・好転するような要因がないため、今後については悪くなる。
企業動向関連 (北海道)	良くなる	-	-
	やや良くなる	建設業（経営者）	・官民、土木建築ともに徐々に工事が着手されることで、人、物、金が動き始める。
		輸送業（従業員）	・北海道新幹線の開業に伴う効果が期待できる。
	輸送業（支店長）	・雪解けに合わせて、新年度の輸送物件が始め、案件が軒並み決まってきていることから、現状よりは忙しくなることが期待できる。	

		金融業（従業員）	・北海道新幹線の開業効果により景気の底上げが期待できる。また、今年のゴールデンウィークは例年に比べて長期間にわたるため、個人消費の改善が見込まれる。さらに、補正予算の執行により公共投資の増加も見込まれる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・補正予算による公共事業が見込まれるなど、農業土木で改善の兆しがあるため、今後についてはやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・補正予算やゼロ国債による公共工事が発注されることで、その効果が期待できる。
変わらない		食料品製造業（従業員）	・今のところ、2～3か月先の案件として受注量が増減するような要因は見当たらない。
		建設業（従業員）	・外国人観光客の入込による経済効果にも陰りがみえ始めており、観光業界を主体に出始めていた建築投資が減少することになる。
		建設業（従業員）	・来年度の土木公共工事の受注が滑り出しとしては順調に推移している。また、民間建築の商材件数も比較的多いことから、今後も大きな変化はみられないまま推移する。
		輸送業（営業担当）	・東日本大震災の復興需要に伴う護岸ブロックの輸送が今後も継続する。また、生乳の道内生産量が引き続き前年を上回っており、飲用、バター、脱脂粉乳向けの出荷量が増加している。
		司法書士	・北海道新幹線の開業による効果が、旅行、ホテル、飲食などの業種以外にどのような影響を与えるのか、現段階での判断は難しい。
		コピーサービス業（従業員）	・今までどおり保守的な客先が多く、新規事業の展開などの話をあまり聞かないため、今後も変わらない。
やや悪くなる		家具製造業（経営者）	・大手百貨店の撤退が決定したことに伴いマインドの低下が懸念される。
		通信業（営業担当）	・取引先の様子として、投資に対する慎重姿勢や価格への敏感さなど、景気の先行きに対して神経質となっている状況が以前に増してみられることから、この先の景況感については現状よりも悪くなる。
		司法書士	・駅前百貨店の撤退の動きが報じられたことや消費税増税の不明確さからマインドが下がり、景気も低迷することになる。
		司法書士	・給与の据え置きが続くなか、消費税増税の動向が不透明になっているため、今後の景気は回復しない。不要不急の買物を避ける傾向が強くなることで景気は下向きになる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・地域の基幹産業である建設業において、公共工事の先行きが不透明なことに加えて、参議院議員選挙も控えていることから、選挙が終わるまでは発注の少ない状況が続く。
悪くなる		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・3月になって業界全体の作業量が急に減ってきている。同業他社の話聞いても、2か月くらい前までは要員不足で悲鳴を上げていたのに、ここにきてパツパツと作業が減ってきたばかりか新しい案件の話も出てこない。要員の募集に関する話も聞こえてこなくなった。来年度は厳しいスタートになりそうだ。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・前年と比較すると大型案件の受注残が6割減となっている。他の商材で到底カバーできる規模ではないため、今後については悪くなる。
雇用関連	良くなる やや良くなる	-	-
(北海道)		人材派遣会社（社員）	・今後の企業の求人ニーズはやや良くなるとみられるが、今年に入ってからの景気動向が経営者マインドを若干冷やし気味であり、企業活動のスピードもやや落ちている。こうした状況が続くことになれば、採用の手控えなど、労働市場への悪影響が生じることも懸念される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・地域医療の核となる大型病院の移転建設が始まったこともあり、この春は前年よりもムードが若干良くなっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・これから北海道の観光シーズンを迎えるため、小売や飲食店、宿泊などの業種で北海道新幹線開業の影響や外国人観光客の更なる増加を見込んだ求人が増えることになる。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が増加していることで、2月の有効求人倍率が1.13倍と9か月連続で1.0倍を超える高水準が続いている。このため、今後についてもやや良くなる。
変わらない		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・前年実績を下回る状況が続いているため、何か特殊な要因がない限り、この傾向は変わらない。

	職業安定所（職員）	・北海道新幹線の開業に伴い様々なイベントなどが行われており、当面は盛り上がりが続くことが期待できる。ただ、開業に向けて開店した外食産業などが、実際に期待どおりの売上を上げることができるかは、もう少し様子をみなければ判断できない。
	職業安定所（職員）	・職業別の求人数を前年と比較すると飲食物の調理や接客給仕、介護などのサービスの職業、販売の職業、医療専門技術職、社会福祉の専門職など、人手不足と言われている職種の増加率が高く、今後もこうした傾向が続く。
	職業安定所（職員）	・12月から2月にかけての新規求人数が前年から6.1%の増加、有効求人数が前年から9.0%の増加となっていることから、今後も求職者数が減少し、求人数が増加する状況が継続する。
	学校 [ 大学 ]（就職担当）	・7月ごろまでは各企業の新卒採用意欲は高い状態のまま横ばいで推移する。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・前月と同様に、製造業関連の求人数が増えているが、今月は一部の業種で減少傾向がみられ始めている。全体としては大きな動きには至っていないが、今後、減少傾向が全体に波及することが懸念される。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・老舗私設市場の倒産、百貨店の撤退など、明るい材料がなく、今後の景況感はやや悪くなる。
悪くなる	-	-